



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121
 会長 荒木康雄 幹事 向山賢悟 会報委員長 唐木 拓 第2982回 例会2023.3.2 No.1643



2022-23 年度 RI テーマ

IMAGINE ROTARY

ソング 君が代・奉仕の理想**会長談話** 荒木康雄会長

明日 3/3 は「桃の節句」です。由来は西暦 300 年頃の中国で「上巳節（じょうしせつ）」と呼ばれ、旧暦 3 月最初の「巳の日」に行われていました。春を寿ぎ無病息災を願う行事で、季節の変わり目のこの頃は体調を崩しやすいので邪気が入らないようにと沐浴して禊をしていました。そのころ開花する桃は邪気を払う神聖な樹木や花、実として大切に扱われました。その後、女の子のお祭りへと変化していきましたが、桃の結句は本来健康を願う行事ですので、女の子がいるいないに拘らず、明日は自分と家族の健康を願って桃の節句らしいことをしてみてもはどうでしょうか。

さて、皆さんは「雪が解けると〇〇になる」という問題に何と答えますか？静岡県立大学でマーケティングの実践手法を研究されている岩崎邦彦教授のコラムに興味深いことが記載されていました。全国の消費者 1,000 人に先の質問に答えてもらったそうですが、一番多かったのは「水」と答えた人で全体の 64%、次に多かったのは「春」で全体の 25%、この二つの回答で全体の約 9 割を占めたそうです。この問題と一緒に行った質問で、回答者に自分は「論理的思考が優れている」と思うのか、「感性が優れている」と思うのかも聞いてみたそうです。結果、自分は「論理的思考が優れている」と回答した人の約 7 割が「水」と答え「春」と答えたのはわずか 1 割、一方、「感性が優れている」と回答した人で「水」と答えた人は半数を割り、「春」と答えたのは前者の 3 倍以上の 35%にのびりました。回答者本人が自覚していることと同じ回答の傾向が見られたこととなります。「雪が解けると水になる」は論理的な考えであり“サイエ



ンス”と言えます。一方、「雪が解けると春になる」は情緒的な発想であり“アート”と言えます。マーケティングに成功するためには、単にサイエンス的な要素で消費者の「アタマ」に訴えるだけでなく、アートの要素で消費者の「ココロ」も捉えることが大切であると岩崎教授は結んでいます。さて、皆さんは「水タイプ」でしょうか、それとも「春タイプ」でしょうか？

会員スピーチ 本郷一博会員**演題-「新型コロナウイルス感染症の現状」**

昨年 10 月下旬から始まった第 8 波は、現在全国的に収束しつつあり、長野県の感染警戒レベルも小康期となりました。当院では、コロナの確保病床は現在 19 床で対応していますが、入院患者はこのところ多くて 5 名ほど。特別養護老人ホームなどの高齢者施設で集団発生が時々あり、肺炎があり呼吸状態が悪いなどで入院要請があります。厚生省からの 2 月版として 2 月中旬に公表されたデータを紹介します。

*日本では、本年 2 月 1 日時点で、3200 万人余が新型コロナウイルス感染症と診断されており、全人口の 25.8%に相当する。*治療：軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多い。重症化リスクのない方には、症状を考慮した上で、解熱剤や抗ウイルス薬を投与。重症化リスクのある方には、中和抗体薬、抗ウイルス薬を投与。呼吸不全を伴う場合は、酸素投与、ステロイド薬、免疫調整薬を投与。さらに人工呼吸器などによる集中治療も行う。重症化する割合や死亡する割合は、現在のオミクロン株となってから、以前と比べて低下している。*ワクチン接種状況は、2 月 13 日時点で、3 回接種完了者は 65 歳以上では、85%以上。現時点での大きなニュースは、感染症



法上の分類が現在の2類相当から5月8日に5類に移行する、というものと思われます。5類となれば感染者、濃厚接触者、いずれも待機期間なし、原則すべての医療機関で診療可能、緊急事態宣言は発令できず、マスクは屋内でも原則不要、ワクチンは今後検討、2023年度は公費になるとのことです。

また、どの医療機関でも診療できるようになる、としています。医療機関の判断にゆだねられているので、実際にすべての医療機関が新型コロナウイルス感染症患者を診療するかはわかりません。上伊那圏内で、行政も含めて、病院・診療所間での協議が必要と思っています。

季節性インフルエンザと同じ程度の感染症になったか？ですが、発生初期に比べて重症化率や致死率は低くなったものの、今後の変異株の発生により状況は変わる可能性がある。後遺症も長く続く人がおり、インフルエンザとは異なると言われています。感染予防対策についてですが、新型コロナウイルス感染症が、パンデミックではなくインフルエンザのように地域ごとに流行を繰り返すエンデミックになる、ということであり、適切な感染予防対策を続けることが必要です。

ちなみに、当院での「会食ルール」（懇親会等含む）では、上伊那圏内が「小康期」となった2月17日以降、10人まで、2時間まで、アルコールは可、などとし、同じ部署から多数参加することがないように、としています。5類移行に伴い、感染発生時に病院運営・診療の妨げにならない事を念頭に参加あるいは開催可能、とする予定にしています。

ロータリー例会での食事ですが、短時間ではあり、大きな声での会話を避けながらの食事であれば、可能とするのが妥当ではないかと考えます。なお、5類移行後は、「新型コロナウイルス感染症2019」に呼称が変わるようです。ちなみに、新型コロナウイルス感染症は、世界的にはCOVID-19と呼ばれています。これは、coronavirus disease 19の略で、まさに新型コロナウイルス感染症2019というものです。

以上、新型コロナウイルス感染症に関してお話し致しました。何らかの参考にしていただければ幸いです。

誕生祝

小林旬子・登内豊明

結婚記念日祝

橋爪利行・原田和愛
坂井清彦・本郷一博



矢島 豪・平出吉範
唐澤幸利・城取健太



在籍祝

小林孝行(30)・坂井清彦(29)
岩附 宏(13)・唐木 章(13)

幹事報告

別紙をご覧ください

理事会報告概要

1. 3月のプログラム 2. 慶弔見舞 3. 小坂栄一会員白寿お祝いについて 4. 第64期役員・理事・委員会構成 5. 2023-24年度地区補助金・青少年育成事業内容 6. 観桜会について

委員会報告

○3月号「ロータリーの友」紹介
水と衛生月間 下枝正一副会長
横組みP7~15 3月は水と衛生月間
地域の森の活用術の特集。縦組みP
4~8 高校生へのキャリア教育。岩手県陸前高田市で酒造として始まり、味噌や醤油製造を行う河野道洋さんの趣旨。P9~12 この人を訪ねては、佐倉中央RCの萩原勇作さんの記事。

○小坂栄一会員白寿お祝い

3月1日小坂会員のご自宅へ会長・SAA
会報委員長でお祝いの品をお届けに上がりました。



出席報告 会員数56名 内出席免除者19名
出席者34名 事前メーキャップ1名 出席率73.90%

ニコニコボックス

- ・荒木康雄・向山賢悟 本郷一博会員、本日はスピーチをよろしくお願い致します。
- ・三澤清美 内孫が大学と高校を卒業します。この先どんな人生を送るか楽しみです。
- ・在籍祝

ラッキー賞

- ・平出吉範・平澤泰斗
- ・大石ひとみ・神山公秀
- ・原田和愛・藤澤秀敬
- ・吉田秀樹

次期委員会人事発表

唐澤幸利副幹事より、第64期の役員・理事・委員会構成が発表された。

